



# 阿波高新聞

11月号  
169号

編集  
新聞・文芸部

新聞・文芸部員大募集!  
私たちと一緒に阿波高新聞やオリジナル部誌を作ってみませんか。文章やイラストを書くのが好きな人、ぜひ新聞・文芸部に入学してください。待っています!  
また、阿波高新聞で取り上げてほしい記事等がありましたら、顧問の佐藤先生までお知らせください。

こんにちは。新聞・文芸部です。  
遅くなりましたが、十一月号です。

今月号は、教育実習生の皆さんと私たちの学校生活を支えてくださっている事務室の事務課長さんへのインタビューです。「公務員」という仕事は、阿波高生にも志望者が多いですよ。今回のインタビューは、参考になること間違いなしです。ぜひご一読ください!

## ◎甲斐宏司事務課長さんへのインタビュー

Q1 阿波高校では、どんなことをされていますか?

A 事務課長という役職で、学校事務の総括的な役割を担っています。

学校事務には、教材、備品などの購入手続きや授業料や修学支援金の手続きを進めたり、雨漏りがあれば、修繕工事の手配、支払いなど、多岐に渡る仕事をしています。

Q2 県庁では、どのようなことをされていましたか?

A 税金に関する課税や徴収です。

ほかには、公共事業に関する用地買収、障がい者や生活保護などの福祉に関する業務です。

Q3 阿波高校、阿波高生をどう思いますか?

A 松契松が素晴らしい。

純朴な生徒の皆さん、松契松のように大きく成長してください。

Q4 仕事をされる上で気をつけていることはありますか?

A 計画的に効率よく業務を遂行すること。

職場内でのコミュニケーション、意思疎通を図ること。

Q5 高校三年生のとき、どのような「どのよう」に勉強をされていましたか?

A 一般教養問題全般ですね。

勉強する時間帯ですが、夜に勉強するより、夜は早めに寝て、朝、早く起きて勉強する方が学習効果は高いと思います。但し、その場合は、昼休みに五分でも十分でもいいので仮眠を

取ってください。午後からの授業、部活動、目も脳もバッチリですよ。

Q6 高校生活で楽しかった「良かった」思い出を教えてください。

A 部活動で軟式野球をしていたのですが、四国大会で優勝して、全国大会に出場が決まった瞬間、チームの仲間と共に喜びを分かち合ったこと。

Q7 公務員を目指している阿波高生に一言、お願いします。

A 「君ならできるよ。ファイト一発!」

Q8 最後に一言、お願いします。

A 失敗を恐れずに、何事にもチャレンジしてください。たとえ、失敗しても、それを糧にして飛躍してください。  
Best of luck!

甲斐事務課長さん、ありがとうございました。

## ◎教育実習生の先生へのインタビュー

今月号では、中川晟那先生、小崎公也先生、佐野美柚先生のインタビューをご紹介します。

Q 大学生活のいいところはどこですか?

N 時間に縛られない、自分のやりたいことを行動に移せることです。学びたい分野を専門的に学べます。

K 自分の時間が増えてやりたいことがたくさんできるところです。自分のやりたい勉強ができます。

S 自由なところです。

Q 高校生に戻れるなら...?

N 自分の考えに後悔がない道を選びたい。クラスの仲間と思いを遺りたいです。

K サボってきた分の授業をやり直したいです。

S 部活に打ち込んでみたい。

Q 高校三年生の夏はどんな生活をしていましたか?

N 部活動と勉強の両立を心がけてました。サッカー部で、最後の夏の大会に向けての仕上げですね。補習は毎日参加して、ひたすら問題を解いていました。オープンキャンパスに参加して、大学の見学にも行ってました。

K 補習に参加して、毎週土曜日に模試を受けていました。

音楽部で、夏の県大会、四国大会にも出場しました。

S 特別な勉強方法は特にありませんが、テストや模試の復習を丁寧にしていました。

Q 阿波高生に一言お願いします!

N 皆さんは、今、目指している夢や理想があると思います。ですが、これから多くの出会いや経験が皆さんを待っています。一つのことだけ目指すのではなく、選択肢をたくさん持ち、自分なりの人生というものを歩んでみてください。

K 一生に一度の高校生活です。共に生活する仲間との時間を大切にしてください。先輩や後輩、そして先生、卒業したとしても必ずどこかでつながっているはず。人との関わりは大切に!

S 思いっきり青春してください!

先生方のアドバイスをしっかり受け取り、高校生活を大切に過ごしたいと思いました。

中川先生、小崎先生、佐野先生、ご協力ありがとうございました。来月号では、荒井先生、北池先生、近藤先生のインタビューを掲載します。お楽しみに!



